

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-300808

(43)公開日 平成5年(1993)11月16日

(51)Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 F 3/04		8103-2E		
A 4 1 D 3/04	G			
	F			

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

(21)出願番号 特願平4-107467

(22)出願日 平成4年(1992)4月27日

(71)出願人 592092696

井上商事株式会社

東京都目黒区駒場4丁目3番13号

(72)発明者 松田 健次

東京都中央区京橋1-7-1

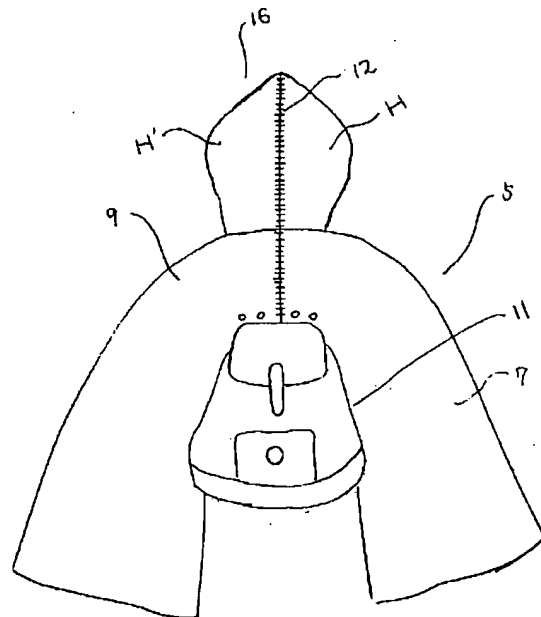
(74)代理人 弁理士 江崎 光史 (外3名)

(54)【発明の名称】 リュックサック

(57)【要約】

【目的】 マントを内蔵したリュックサックを提供すること。

【構成】 リュックサック1の両側S、S'に切込み3を形成して、この切込み3内に袋状の布地を挿入し、その開口縁部を縫付けて内ポケット2を形成し、同時に開閉手段4を縫付け、フード部16を含めて二つの半部分H、H'から成るマント5の半部分の胴身頃7の各々をこの内ポケット2と切込み3の縁部に縫付け、上記両マント半部分H、H'を折畳むことにより、この内ポケット2内に挿入可能にした。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 マントを内蔵したリュックサックにおいて、リュックサック本体（1）の両側面（S、S'）にリュックサックのほぼ全長に等しい長さの切込み（3）を形成し、別個に袋状に裁断した布地を上記切込み（3）よりリュックサック本体内に挿入してこの袋状の開口縁部と切込み（3）の縁部（10）を縫合させて内ポケット（2）を形成し、マント（5）の両胴身頃（7）をリュックサックの側面（S、S'）に沿った部分（11）において切込み（3）の長さに相応して内ポ  
10 ケット（2）の縁部と縫合させ、この両側面（S、S'）の切込み（3）の開口部から両内ポケット（2）内に収納し得るようにし、この場合マント本体（5）のフード部（16）と背身頃（9）と胴身頃（7）とがフード部（16）の中心切断線（12）を境にして二分割でき、これらの両マント半部分（H、H'）がそれぞれリュックサックの背負い側に面した上縁部（6）に取付けた条片（8）にホック止めされ、取外し可能であり、内ポケット（2）内に収納可能であるように構成したことを特徴とするリュックサック。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明はマントを内蔵したリュックサックに関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来のリュックサックにはマントを内蔵したものではなく、晴天時或いは曇天時に予想に反して突然雨、雪等が降った際マント等の用意がなく、濡れざるを得なかった。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明はこのような事態に対処するためにマントを付帯させたリュックサックを提供することである。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】このリュックサックの特徴とするところは、リュックサック本体の両側面にリュックサックのほぼ全長に等しい長さの切込みを形成し、別個に袋状に裁断した布地を上記切込みよりリュックサック本体内に挿入してこの袋状の縁部と切込みの縁部を縫合させて内ポケットを形成し、マントの両胴身頃をリュックサックの側面に沿った部分において切込みの長さに相応して内ポケットの開口縁部と縫合させ、この両側面の切込みの開口部から両内ポケット内に収納し得るようにし、この場合マント本体のフード部と背身頃と胴身頃とがフード部の中心切断線を境にして二分割でき、これらの両マント半部分がそれぞれリュックサックの背負い側に面した上縁部に取付けた条片にホック止めされ、取外し可能であり、内ポケット内に収納可能であるように構成したことにある。

【0005】上記と同じ趣旨のもとに、リュックサック

に内ポケットを形成する代わりに、リュックサックの両側に外ポケットを形成してマントを収納するようにすることも可能である。

【0006】以下に添付した図面に図示した実施例につき本発明を詳しく説明する。

## 【0007】

【実施例】図1および図2にはリュックサックの正面図および側面図を示した。図1および図2に示されているようにリュックサック1の両側面S、S'に切込み3が形成されている。この切込み3の長さはリュックサックの長さのほぼ全長にわたっている。この切込み3の開口部から、リュックサックとは別個の、ここに図示しなかった袋状に裁断された布地を挿入して、この袋状の布地の開口縁部を切込み3の縁部10と縫合させてリュックサック内に内ポケット2を形成する。この内ポケット2の縁部、即ち切込み3の縁部10に相応する縁部に、この切込み3の長さのほぼ全長にわたって、以下に詳しく説明するようにして裁断縫製されたマント本体5の両半部分H、H'の胴身頃7の縁部を縫付ける。その際、これらの胴身頃7の内ポケット2の縁部への縫付けは、マントの内ポケットへの収納が容易にできるように縫い代を僅かにとるのが有利である。リュックサックの背負い側の上縁部6には条片8が縫付けられている。この条片8にはホックが取付けられており、このホックによりマント本体の両半部分H、H'から成るマント本体の背身頃9がそれぞれホック止めされる。

【0008】マント本体の胴身頃7は図4に示すように円形の布地を、中心部に向かって三角形に裁断して、凹所13を形成し、この三角形の凹所13の尖端部が位置するマント本体の中心部においてこの三角形の尖端部の延長として布地を円形に裁断して、円形の中心部Mを形成する。この中心の円形部分Mはマントの首回りとなる。この中心部Mに後に詳しく述べるフード部16、16'が縫付けられる。

【0009】この三角形の切込み凹所13に相対する側には凹状の切込み14が切取られており、この凹状切込み14の最も深い部分の凹状部の中心から中心部Mに方向にスリット17が形成されており、これにジッパーが縫付けられており、このジッパーを開閉することにより、マント5は半身頃部分H、H'に分割される。

【0010】この凹状の切込み14の最も深い部分の縁部にホック15が取付けられており、マント5装着時においてこの凹状の切込み14のホック15とリュックサック1の条片8とが係合される。即ち、この凹状切込み14内にリュックサックの背部6が入る。従ってこの凹状切込み14の幅はリュックサックの背部6の幅に等しいか、これより幾分大きい。この係合によりマント5は半身頃部分H、H'が合体される。

【0011】図5はフード部16を外したマント本体5の完成図である。この完成図にあって円形中心部Mは空

洞状となり、この空洞状にマントを着用する人の頸が入る。この円形中心部Mの周囲にフード部16が縫付けられる。

【0012】マント5のフード部16は、図6と図7に示すように、対称的に変形扇形に裁断した二枚の布地16'、16''とから成る。これらの両フード部分16'、16''は長辺20'を縫合させて、袋状に形成され、一つのフード部16を形成するために、それらの湾曲部に開閉手段、例えばジッパー19が縫付けられており、着用の際このジッパー19、19を結合してフード部16とする。これらのフード部分16'、16''は各々をマント本体の襟ぐりと縫合させ、短辺20、20においてマント5の縫付け部18に縫付けられる。

【0013】図8は本発明によるマントの完成図である。この図から明瞭であるように、このマントは、頭頂部、うなじを経てマント背部に至るまでジッパー19と17とを備えたスリットが形成されることにより、マントを収納する際これらのジッパー17、19の係合を解き、ホック15を外すことにより、二つのマント部分H、H'に分割され、これらの分割部分を胴身頃7を中心にして折り畳むことにより、この胴身頃7をリュックサックの内ポケット2に両側から収納することができる。着用の際は、内ポケット2から引出した後、ホック15とジッパー17と19とを係合すればよい。

【0014】上記のように、図8から明瞭であるように、マント本体を着用した際リュックサックの吊りバンドはマントの内側に入り、外部からは見えない。図9および図10図に示したように、マント本体を収納するためにリュックサックに内ポケット2を形成する代わりに、リュックサックの側面に外ポケット2'を形成することも可能である。この外ポケット2'の形成は、袋状の布地21をリュックサックの両側面S、S'に縫付けることにより簡単に形成することが可能である。もちろんこの場合も、切込み3が設けられ、これに開閉手段4'が縫付けられる。また条片8'およびホック15'も取付けられる。

【0015】

【発明の効果】上記のような本発明によるマントの構造により、天候急変にあっても、簡単にマントを組立て使用することができ、ハイキング等の際に天候を心配する必要もなくなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明によるリュックサックの正面図である。

【図2】本発明によるリュックサックの側面図である。

【図3】完成したマントをリュックサックに装着して背後から見た図である。

【図4】マントの裁断状態を示した図である。

【図5】裁断後のマントの図である。

【図6】フード部の図である。

【図7】フード部の図である。

【図8】マントをリュックサックに装着した際の背後図である。

【図9】本発明によるリュックサックの他の実施例の正面図である。

【図10】本発明によるリュックサックの他の実施例の側面図である。

【符号の説明】

1 リュックサック

2 内ポケット

2' 外ポケット

3, 3' 切込み

4 開閉手段

5 マント

6 リュックサック背部

7 マント胴身頃

8 条片

9 マント背身頃

11 マント縫付け部

12 ジッパー

13 凹所13

14 凹状の切込み14

15, 15' ホック

16, 16' フード部

17 スリット

18 フード部縫い付け部

19, 19' ジッパー

20 長辺

20' 短辺

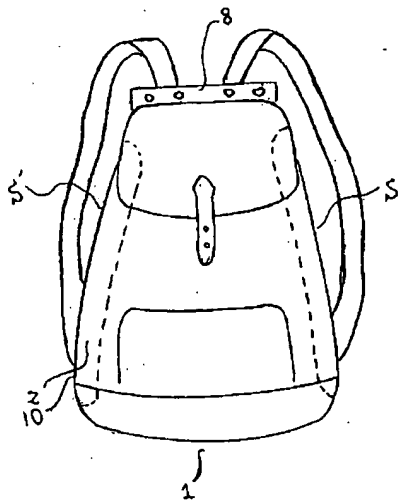
21 袋状布地

H, H' マント半部分

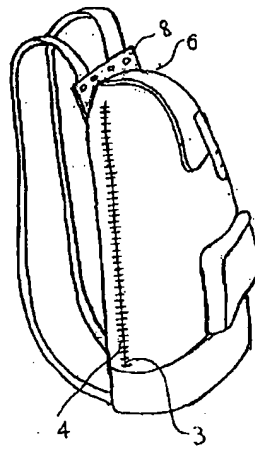
M 中心部

S, S' リュックサック側面

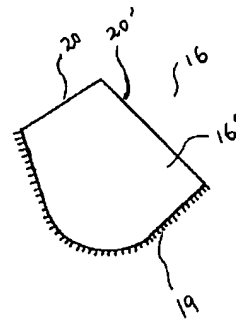
【図1】



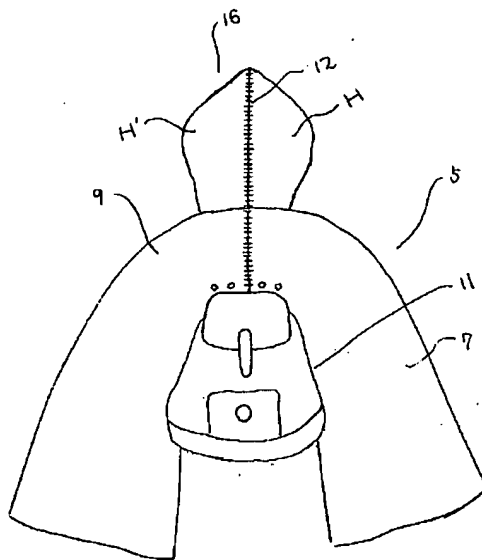
【図2】



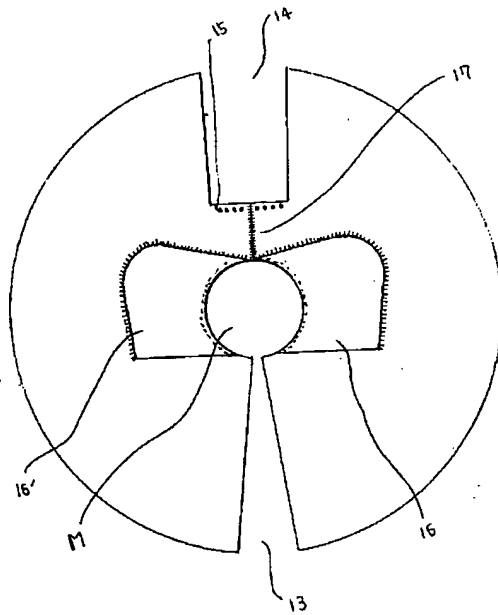
【図6】



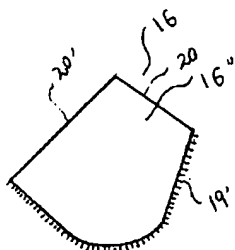
【図3】



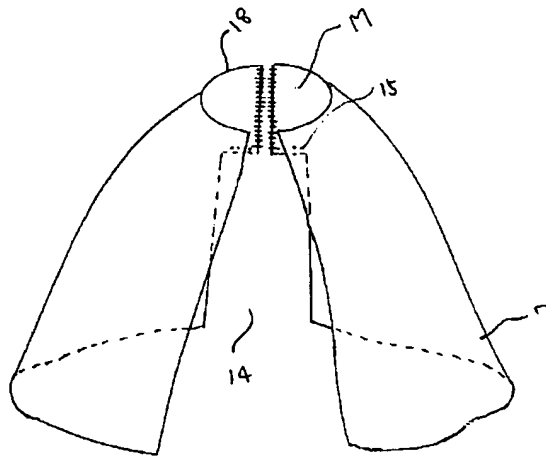
【図4】



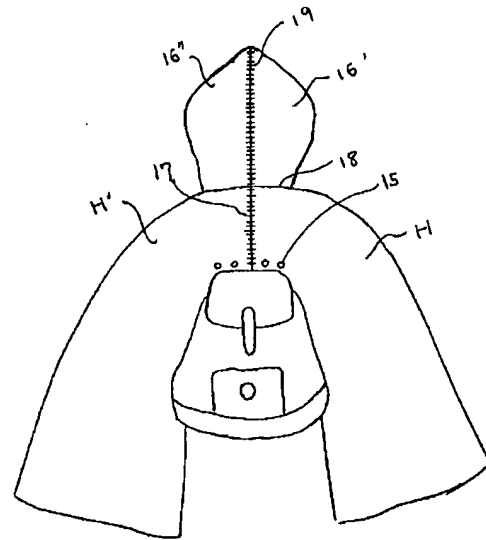
【図7】



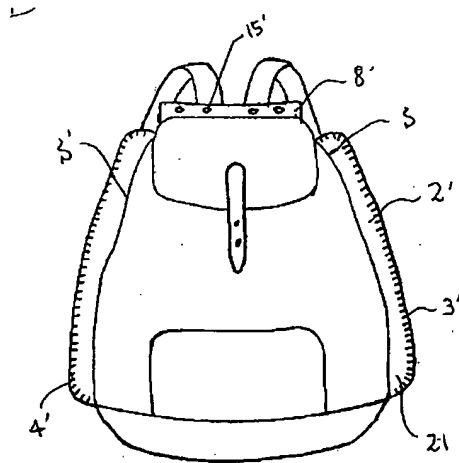
【図5】



【図8】



【図9】



【図10】

